

この記事は2月下旬に書いていますが、黒田投手の話題でマスコミが大きく取り上げています。よく、調べた訳ではないのですが、直観的なヒラメキで「疾風勁草」と「愛語回天」という4文字熟語を思い浮かべました。  
栩野

MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、品質づくり」を実践する着実・前向き・具体的な活動です。

## 黒田投手に学ぶ

右掲は、メジャーからの20億のオファーを蹴って4億+αで広島カープへ戻った「男気」と話題になった黒田選手です。メジャーは在籍10年で桁違いの年金が保証されているというのですが、後2年、しかも、実際にオファーがあるという状況下での決断だったので、当然、大きな話題になったのです。「金じゃ買えない人ころ」と言いますが、メジャーにすれば、まさにその通りの事が起こったのです。まあ、彼らにすれば、やっぱり、日本人はよく分らんというのが印象かも知れません。



しかし、彼の経歴を調べると広島カープに逆指名で専修大学から入団しているので、学生の頃から球団の関係者とコンタクトがあったのかも知れないと推測できるのです。こういう背景の上で、8年前に、涙の会見でFAでメジャーに行き、トンでもない移籍料を広島カープにもたらしたのです。「なぜ、泣くの？」という感じでしたが、プロ野球事情に門外漢の私には「貧乏な家の娘が身売り」という風な光景が思い浮かぶのです。確かに、カープは市民球団で貧乏なのでしょう。金本選手も新井選手もFAで阪神へ移籍で多額の移籍料が球団に入ったのです。

そして、今回の黒田選手の復帰でも、即時的に年間BOX席完売や関連グッズ販売などの顕著な経済効果をもたらしているのです。なんかカープの事情に振り回されているように思いますが、それにしても、今時珍しい人であり、「疾風勁草」という言葉がピッタリの人と思ったのです。「疾風勁草」は、中国の古典にある諺なのですが、「疾風」つまり、環境が非常に厳しい時でも「勁草」つまり、凜として立っているという事で、実際には、

## 「疾風勁草」と「愛語回天」

主君の形勢が危なくなった時に、地方から馳せ参じて挽回に貢献した人の話なのです。まさに、カープの疾風の時に、敢えて自分の好条件を捨てて苦境のカープに身を転じて自ら凜としてチームに活力をもたらして現状打破している勁草の姿なのです。

その背景には、黒田選手は逆指名で入団しているので、カープの人との関係性が強いのだと思いますが、今回もカープの誘いが何度もあったという事です。なかなか、人の心を動かすという事は難しいのですが、余程、カープの関係者の思いが伝わったのだと思います。このような事は、「愛語回天」という言葉を思い出します。「愛語」つまり、相手を思ってかける言葉が「回天」つまり、その後の人生を変えるという事なのです。きっと、黒田選手にかけた言葉で彼の人生が大きく変わっていたのだと思う訳です。

「疾風勁草」と「愛語回天」・・・この2つが重なっているのです。経営者ならば厳しい時に凜として現状打破するような骨太の社員が望ましいのですが、何もせずに望むのはムリですね。その前に「愛語回天」があるのです。日頃からのような言葉をかけているかがポイントなのです。現実的には、社員さんとのコミュニケーションの機会を積極的にもっているでしょうか。ムダ話も必要ですが、「君の為に・・・」と真正面から話すことも重要なことと思います。

それにしても、カープは市民球団で貧乏なのでしょうね。金本選手や新井選手などと次々とFAで放出して移籍料を獲得しています。金本選手は阪神で引退、新井選手はボロボロになって広島に復帰。これも人生だと思えます。

### ワンポイント・アドバイス

「男の値打ち」という事を改めて考え直しました。お金じゃないという浪花節的な現実の話です。そういう心を動かすという話は滅多に起こりませんが、人は「何故動くか」という永遠の課題を考えられました。黒田選手の規模でなく、どんなにちっぽけな話かも知れませんが、金じゃない所で動くという事を実践して行きたいと思えます。

